

令和元年度事業実績

本年度は、本事業の最終年度であり、新たな飛躍を目指す基盤を完成することを心がけた。今年、日本初の日本手話を教育言語する正式な学校明晴学園からの卒業生を含む4名の聴覚障害者を入学生として迎えた。一方、4名の卒業生のうち一名は本学初のろうの介護福祉士となり、二名は社会福祉士となり、うち一名は教員免許も取得した。

これまでの事業の継続としては、第一に聴覚障害をもつ学生の授業に質の高い情報保障、すなわち手話通訳・パソコンテイクを提供した。第二に、ろう者の母語である日本手話でろう者の教授陣が直接授業を提供した。これはろう者のみが教える日本で唯一の正規のコースであるため、他大学の学生も単位互換制度を使って受け入れてきた。その成果は一昨年単行本として出版され、その内容は昨年European Language Council（ヨーロッパ言語協議会、於ワルシャワ）のLanguage Right: Issues and good practices（言語権会議）に選ばれ、今年も国際学会（於アメリカハーバード大）で発表した。第三に情報保障付き授業とろう講師の手話による授業の二本立てでのろう・難聴の高校生のための進学支援を行った。

事業1「日本手話による教養大学」

日本社会事業大学文京キャンパス（一部清瀬キャンパス）にて、ろう者講師が担当し手話で教授する「手話による教養大学」を開催した。一年次生も積極的に受講した他、二年次以上の学生や単位互換制度を利用した他大学の学生が受講した他、聴講生として社会人も受講した。

文京キャンパスでは、前期10科目・後期4科目開講し、受講生は外部ろう者数はのべ43名、学内ろう学生数はのべ27名であった。清瀬キャンパスの3科目はろう者と支援者のべ110名が履修した。ろう学生にとって母語で教育を受けられるという非常に大きな意義のある講座となった。

事業2 学内支援

（1）社会福祉学部等の授業における情報保障者の提供

情報保障（PCテイク、手話通訳）を受けたのは、学部一年生3名、二年生4名、三年生5名、四年生4名、大学院博士前期課程1名、計17名であり、学生支援者は約50名が登録していた。支援を行うにあたっては、対象学生と入念なミーティングを行い、各学生の状況及び各授業の教育目的に沿った支援を行うよう心掛けた。教職課程6名、介護課程1名の学生を含むろう学生の支援をコーディネートした。4年生は2名が社会福祉士国家試験に合格し、1名は教員免許を取得、1名はろう者としては本学初の介護福祉士国家試験に合格して卒業した。

（2）情報保障者養成の実施

養成の事業としては、経験者学生による講習会を適宜行い（個別に申し出があるたびに必ず対応した）、また一昨年設置したコミュニケーション・バリアフリー課程で4名の支援者を養成した。5年前数名から始めたパソコンテイクは現在50名の登録者があり、そのうち15名以

上が常時活躍している。

(3) ろう・難聴高校生への対応

9回のオープンキャンパスを清瀬キャンパスで開催した。毎回ろう・難聴の高校生およびその保護者が来学した。手話通訳・パソコンテイクつきの講義や演習を体験し、進学相談も情報保障付きで参加した。支援者およびろう・難聴の在生も交代で対応した。プロジェクト室にはろう文化を紹介した書籍やDVDの紹介コーナーを設け、聴者の高校生にも本学ろう学生による手話教室の案内をした。ろう・難聴の高校生と保護者たちには自由にキャンパスの中で過ごしてもらい居心地のよさを体験してもらった。聴者の来学者の中には、本学のろう学生の手話教室に参加した高校生の中には、その後本学を受験し合格した学生もいる。

(4) 国家試験対策講座

当事者ソーシャルワーカーの養成として、手話通訳つきの社会福祉士国家試験の対策講座を開講した。昨年まで秋から集中講座の形で行ったが、今年は早くから初め、集中ではなく分散して主に土曜日に開催した。6月1日、29日、7月10日、17日、9月26日、10月26日、11月9日、30日、12月7日、14日、21日、1月11日と丁寧な指導を行った。

2～3年生のろう・難聴の学生が出席した。

事業3「ろう・難聴高校生の学習塾」開講

聴覚障害を持つ高校生を対象に、ろう者の講師が手話で教えるクラス、聴者の講師が情報保障付きで教えるクラスの両方を用意した塾を開講した。1学期・2学期・3学期に加えて、夏期講習・冬期講習・春期講習を開講した。新型コロナウイルスの感染拡大により全国の小中高校が一斉に休校になったことに伴い、3学期の最後の2回及び春期講習は初めて講師・生徒共に在宅の状態です遠隔指導を行った。

1学期は5月24日～7月19日の毎週金曜日、全9回開講し、29名が参加した。夏期講習は8月22日・23日・29日・30日の4日間開講し、22名が参加し、2学期は9月27日～11月15日の毎週金曜日、全8回開講し、23名が参加した。冬期講習は12月13日・14日・19日・20日の4日間開講し、19名が参加した。3学期は1月24日～3月13日の毎週金曜日、全8回開講し、20名が参加した（最後の2回、3月6日と13日は講師・生徒両方在宅です遠隔指導を行った）。春期講習は3月19日・21日・26日・27日の4日間開講し、7名が参加した（全て遠隔指導で行ったため、参加人数は普段より少なくなった）。

- 1学期：5月24日（金）～7月19日（金）毎週金曜。9回。

	ろう者講師 手話クラス				聴者講師 情報保障付きクラス			
	英語	英語	国語	数学	英語	英語	数学	AO推薦 対策
18:00- 19:40	英語	英語	国語	数学	英語	英語	数学	AO推薦 対策
19:55- 21:05	英語	英語	国語	数学	英語	国語	数学	AO推薦 対策

- 夏期講習：8月22日(木)・23日(金)・29日(木)・30日(金) 4日間。

	ろう者講師 手話クラス				聴者講師 情報保障付きクラス			
18:00-19:40	英語	英語	国語	数学	英語	英語	数学	AO 推薦 対策
19:55-21:05	英語	英語	国語	数学	英語	国語	数学	AO 推薦 対策

- 2学期：9月27日(金)～11月15日(金) 毎週金曜。8回。

	ろう者講師 手話クラス			聴者講師 情報保障付きクラス			
18:30-19:40	英語	国語	数学	英語	英語	数学	AO 推薦 対策
19:55-21:05	英語	国語	数学	英語	国語	数学	AO 推薦 対策

- 冬期講習：12月13日(金)・14日(土)・19日(木)・20日(金) 4日間。

	ろう者講師 手話クラス			聴者講師 情報保障付きクラス			
18:00-19:40	英語	国語	数学	英語	英語	数学	AO 推薦 対策
19:55-21:05	英語	国語	数学	英語	国語	数学	AO 推薦 対策

- 3学期：1月24日(金)～3月13日(金) 毎週金曜。8週。

	ろう者講師 手話クラス			聴者講師 情報保障付きクラス			
18:30-19:40	英語	国語	数学	英語	英語	数学	国語
19:55-21:05	英語	国語	数学	英語	国語	数学	国語

※最後の2回、3月4日と13日は遠隔での指導を下記時間割で行った。

	ろう者講師 (Skype・Twitter)				聴者講師 (Skype・Twitter・メール)			
18:30-19:40	英語	英語	国語	数学	英語	英語	数学	国語
19:55-21:05	英語	英語	国語	数学	英語	国語	数学	国語

- 春期講習：3月19日(木)・21日(土)・26日(木)・27日(金) 4日間。
(全て遠隔指導)

	ろう者講師 (Skype・Twitter)				聴者講師 (Skype・Twitter・メール)			
18:00-19:40	英語	国語	数学	英語	英語	数学	国語	英語
19:55-21:05	英語	国語	数学	英語	国語	数学	国語	英語

今年度も1コマ70分とし、国語（現代文・小論文）・数学・英語・AO推薦対策の授業を開講した。会場は昨年度と同じ新宿三丁目の会議室を利用した。（3学期最後の2回と春期講習を除く）。

引き続き中学2年生・3年生も受け入れ、高校進学のための指導も行った。また、大学進学を目指す社会人も受け入れ、それぞれに合わせた受験指導を行った。

大学進学希望の生徒は12名で、9名が大学（うち1名は短期大学、2名は通信課程）に進学し、1名は途中で専攻科に進路希望を変更して専攻科に進学した。（2名は浪人を選択）。

卒業生の進学先大学一覧は以下の通りである。

2019年度「ろう・難聴高校生の学習塾」卒業生進学先大学一覧

進学先	人数	出身高校名
国際医療福祉大学	1人	栃木県立聾学校
長野大学	1人	中央ろう学校
金沢星稜大学	1人	中央ろう学校
横浜美術大学	1人	平塚ろう学校
山野美容芸術短期大学	1人	中央ろう学校
筑波技術大学	1人	中央ろう学校
共立女子大学	1人	私立正則高校
日本大学（通信課程）	1人	私立北豊島高校
東京未来大学（通信課程）	1人	

専攻科 1名

昨年度に引き続き、中学生からの問い合わせが増えている。入塾は中学3年生からとしているが、中学1年生・2年生からの問い合わせも多く、高校生と同じ授業に参加するという条件で中学2年生も受け入れた。昨年度同様、中学生であっても高校生よりもレベルが高い場合もあり、学習レベル・年齢が多様化している。

希望のクラス形態（手話クラスか情報保障付クラスか）や希望科目、レベルが多用途で講師・教室不足が引き続き課題である。受講生の年齢・レベルが多様化する中で、限られた予算で全員が満足する時間割を組むのは難しいが、極力一人一人の希望を重視し、対応した。

これまでは、手話ができる生徒はろう者講師の手話クラスに、手話がわからない生徒は聴者の情報保障付クラスに参加する傾向があったが、手話者でありながら情報保障付クラスを希望する生徒も増えている。その場合、情報保障の文字を読み、生徒は手書きで発言をしている。生徒の数が増え、希望やニーズが多様化し、クラス分けが複雑になる一方で、手話ができる生徒はさまざまなクラスの選択肢があり、自分に合ったクラスを選択してもらうことができている。

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、初めて遠隔での指導を実施した。方法は、メール、Skype、Twitter の DM (ダイレクトメッセージ) から生徒が希望の方法を選ぶことができるようにした。Skype を使った指導では、文字チャットとビデオ通話を利用し、文字による指導、手話による指導の両方を提供した。使い慣れているという理由で Twitter を希望する生徒も複数いたため、文字での指導を Twitter の DM を用いて行った。文字での指導の場合も、問題や解説を写真に撮って共有する、という方法も交えながら、国語・数学・英語の指導が可能だった。参加者は通常の開講時に比べると少なかったが、参加した生徒からは遠隔でも十分に勉強ができた満足の声が多かった。また、学校に行けない状況が続く中、学習の機会を提供したことにより生徒・保護者両方から感謝され、少人数でも意義があったと考えている。講師からは、遠方の生徒への指導や相談対応などに導入できるのではないかとの声も上がっており、今後導入を検討したい。

学習塾の活動の一環として、ろう当事者のソーシャルワーカーによるピア相談対応も実施した。進学に関することや学校生活での悩みのほか、進学が決まってからの大学生活への不安など、生徒の悩みは多く、当事者に気軽に相談できる環境が重要であると再認識した。相談対応も、3月以降は Skype を用いて行った。

総括

10年続いた本プロジェクトは様々な目標を達成した。大学での授業の情報保障と、母語としての日本手話を守る手話による教養大学、そしてろう・難聴の高校生の進学塾の三本を柱とし、多岐にわたるろう・難聴の青年を当事者ソーシャルワーカーやろう学校の教師に育ててきた。これらはすべてパイオニアであったが、それに加え、日本手話を大学入試の科目としたり、全国の不登校のろう・難聴の高校生のために動画配信をしたり、世界で唯一のろう者の総合大学アメリカ・ギャローデット大学との連携を始めたりと、次々新たな試みを実現してきた。

2013年度以来、入試への「日本手話」の導入を行ってから、その入試枠を含め、着実にろう学生が入学しており、学部だけでも常時約15～20名のろう学生がいるため、多くの聴こえる学生も手話を覚え、全体がバイリンガル環境になってきている。2018年度から新たに始めた高校卒業認定試験対策の動画配信は、3月23日にNHKの「ろうを生きる・難聴を生きる」で取り上げられ、その後反響もあり、不登校のろう生徒が多くいることがあらためて浮き彫りになった。

支援者養成としては、本学独自の事業として日本初の専門家養成課程「コミュニケーションバリアフリー」が文科省にBP(ブラッシュアップ・プログラム)として認可され、四年目の本年は4名の受講生を迎えた。

日本手話による教養大学は、日本で唯一の日本手話を教育言語とする高等教育の場であり、2017年度、その軌跡を単行本として出版し、ヨーロッパ言語協議会の言語権会議では **Issues and good practice** に選ばれた。本年は国際学会(於アメリカハーバード大)で発表を行った。

ろう・難聴の高校生の塾も一定数の生徒が集まるようになり、NHK WEB NEWS に大きく報じられた。コロナ発生後も遠隔指導や遠隔相談を実施した。

本年度の成果として、第一に、本学のろう学生としては初めて、介護福祉士国家試験に合格したこと、そして二名の社会福祉士国家試験の合格者を出したことがあげられる。第二に手話による教養大学は国内外で認められるようになり、講演も行った。第三にこれまでの実績が認められ、文科省の「障害者の多様な学びを総合的に支援する研究事業」が本学に(私立大学では唯一)委託された。第四に、ろう・難聴高校生の塾がNHKのWEB NEWS に報道され、今

もネット上で多くの人々に読まれている。

卒業生で初の介護福祉士が誕生したことは実習が非常に多く履修科目も多い課程においても質の高い情報保障を付けた結果である。手話による教養大学については多分野の第一人者による講師陣の力が大きい。文科省の「障害者の多様な学びを総合的に支援する研究事業」を委託されたことは、聴覚障害者の多様な支援の成果が認められたからである。高校生の塾がNHKのWEB NEWSに取り上げられたことで、これまでろう・難聴の存在に気づいていなかった若者たちにもろう・難聴のこどもたちの状況を周知させることができた。世界で唯一のろう者の大学ギャロデット大学との連携ができ、新たなプロジェクトへ大きく飛躍した。

事業成果：

2019年9月23日 10th Academic International Conference on Multidisciplinary Studies and Education（於アメリカ・ハーバード大学）にて大学教育の中の日本手話について発表。

2019年12月6日立教大学「全カリシンプोजウム」にてプロジェクトについて講演。

2019年12月21日 NHK テレビ おはよう日本 「手話通訳が足りない」に本学の支援プロジェクトが紹介。

2020年3月30日 NHK WEB NEWS 「耳が聞こえなくても大学に行きたい」にろう・難聴高校生が報道。